

# 宮城県石巻市

かめやま  
ひろし  
亀山 紘 市長



# ふるさと便り

～市長室から～

## 【石巻市情報】

〔面積〕  
554.58km<sup>2</sup>  
〔人口〕  
144,736人(平成30年11月現在)  
〔発電所データ〕  
東北電力株式会社  
女川原子力発電所



## これまでの復興を 振り返って

平成23年3月11日の東日本大震災から7年が過ぎました。復興の最優先課題として取り組んできたのが、住まいの再建です。復興公営住宅の整備は、平成29年度中に市内全域でほぼ完了しており、順次、市民の皆さんに入居いただいている状況です。市内で一番大きい新市街地として整備した新蛇田地区は、その用地買収の際、100人近い地権者から同意を得る必要がありました。4ヶ月という短期間で皆さんから同意を得ることができたため、迅速に住宅整備を進めることができました。ご協力の

ただいた皆さんに感謝しています。

また、JR石巻駅周辺では、公共施設や地域包括ケアの拠点の整備を進めています。駅前の市庁舎に隣接する場所に市立病院を復旧させ、新たに防災センターも開設しました。来年度には、これらに隣接して、市内全体の医療・福祉の拠点を担う「ささえあいセンター」を開設します。駅前公共施設や医療・福祉・防災などの機能を集積させ、暮らしやすいコンパクトなまちづくりを進めています。

## 産業の復興で

## 雇用の創出を目指す

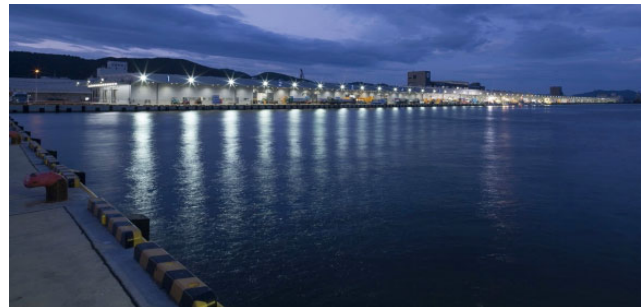
産業の復興も進んでいます。

震災以前から、三陸・金華山沖は世界三大漁場として知られ、石巻港にはサバ、カツオなど金華ブランドをはじめとする魚介類が豊富に水揚げされてきました。震災で大きな被害を受けましたが、石巻港に立地していた水産加工業者の約8割が石巻港での再建を果たし、

水揚げ量は、震災前の8割程度、水揚げ金額は震災前と同程度の水準まで回復しています。

石巻工業港でも、多くの企業が地元での再建を果たしてくれました。各社が震災直後の復旧を急ぐなか、最も必要とされていたのが電源でした。なんとか使える電気を供給してもらえないかと東北電

石巻魚市場の夜景



新市街地・新蛇田地区



上空から望む石巻市街。写真中央は北上川の中州にある中瀬公園



力さんに要請して移動電源車を用意してもらったことで、いち早く復旧に取り掛かることができました。これは大変ありがたかったですね。石巻を代表する企業の一つである日本製紙株の石巻工場も、津波の被害を受けたため事業の継続が危ぶまれましたが、石巻での

再建を果たしてくれました。震災前のように、工場の煙突から煙が上っていくのを見て、市民の皆さんも安心されたのではないでしょう。このように既存産業の復興は進

んでいますが、震災で多くの人口が市外に流出し、現在も人口



『ツール・ド・東北』  
(石巻市提供)



川沿いエリアの完成予想図



川沿いエリアにオープンした『いしのまき元気いちば』(内観)



石巻で栽培された「北限のオリーブ」



『Reborn-Art Festival』での展示 (Photo by Hideyuki Nakano)

減少は続いています。人口を取り戻す方策として、新しい雇用の場づくり、新しい産業づくりにも力を入れていきます。その一つがオリーブの特産品化です。オリーブは、日本では北関東が栽培の北限とされてきましたが、実証実験の結果、石巻でも越冬できることがわかりました。既に市内の4地区に植樹され、収穫もされています。「北限のオリーブ」としてのブランド化を図るとともに、6次産業化を進めることで、一次産業の振興だけでなく雇用の創出にもつなげたいと考えています。

他にも、石巻の海にも生息している微細藻類を培養して、そこから有用な栄養素やバイオオイルを抽出して商品化につなげるビジネスを行う企業も、新たに石巻に開設しました。これらの新しい産業が育つことで、石巻により一層の活力が生まれてくることを期待しています。

### 新たな石巻の魅力の創造・発信で地域に活力を

石巻では新たなまちづくりにも取り組んでいます。「地域の価値を高め、新たな魅力と活力のある街の創造」をスローガンに掲げ、具体的には「かわまちづくり」「総合芸術祭」「スポーツ交流推進」を3本柱として新たな石巻の魅力の創造に取り組んでいます。

まず「かわまちづくり」ですが、北上川の河川堤防を整備するとともに、それに接続するかたちで『いしのまき元気いちば』『かわまち交流センター』などを整備していきます。北上川は石巻のシンボルの一つですが、河川堤防を築くと、まちと川が分断されてしまいます。北上川の景観を活かしつつ、まちと川を繋げるような空間として堤防を機能させたいという思いがあります。「かわまちづくり」では堤防とそれら施設の2階部分を繋げて、公園のような憩いの空間となるように整備を進めています。

川の中州に整備された中瀬公園には、宮城県出身の漫画家・石ノ森章太郎のミュージアムである『石ノ森萬画館』がありますし、現存する日本最古の木造教会建築である『旧石巻ハリストス正教会教会堂』も復元されます。これらの観光資源も含めた川沿いエリア一帯を地域内外の方々の交流拠点にしたいですね。また、川沿いエリアは駅前や中心市街地からも近いですが、その一帯との連携による賑わいの創出が期待されます。川沿いエリアは来年6月末には完成予定ですが、ぜひ遊びに来てください。

「総合芸術祭」の取り組みとしては、宮城県石巻市の牡鹿半島を中心とした、現代アート・音楽・食をテーマとした総合芸術祭『Reborn Art Festival』

を開催していきます。このイベントには、震災で甚大な被害を受けた牡鹿半島を中心に、被災地の「Reborn」再生」の願いが込められています。国内外のアーティストの作品の展示、音楽イベント、地域内外の有名シェフたちによる地元の食材を使った料理など、目と耳で、そして舌で楽しめるイベントです。「スポーツ交流推進」の取り組みでは、『石巻復興マラソン』、『ツール・ド・東北』などのスポーツイベントの開催を通じた賑わいづくりを展開していきます。こうした芸術、スポーツイベントをきっかけに、石巻を訪れていたいただき、石巻の新たな魅力を知っていただけたら嬉しく思います。

### 石巻から全国へのメッセージ

日本全国、世界各国の皆さんから多くのご支援をいただき、復興の歩みを進めていくことができました。ご支援いただいた皆様に深くお礼申し上げます。今回の震災で大きな被害を受けた石巻ですが、ご紹介したように、産業や市街地の復興が進んでいるほか、新たな産業、まちづくりも進んでいます。新しく生まれ変わろうとしている石巻に、ぜひ多くの皆さんに訪れていただき、さらなる活力の創出につなげていきたいですね。(談)